



議会発 特別企画

# 町民と議会で「いま考える」防災

昨年10月の台風19号では、当町でも9カ所の指定避難所を開設し、約500人の町民が避難をしました。12月定例会では、台風19号被害の迅速な復旧のため、関連の災害復旧費用(6000万円超)等の補正予算や請願を全員賛成で可決採択しました。台風19号から4カ月。議員が取材した「徹底取材 町民220人の声」とあわせ、いまこそ冷静に「自分を守る防災」について考えます。



## 台風19号の猛威！ 471ミリの爪痕

昨年10月の台風19号では金尾・小林地区の町道が35メートルにわたり崩落。みかん園も被害を受けました(復旧工事は3月末完了予定)。現在も復旧工事は進んでいます。

### 471ミリってどのくらい？

1981年～2010年の奇居町の降水量は、年平均1290.8ミリ。1日当たりに換算すると3.53ミリです。昨年10月の台風19号の大雨では、その133日分が1日で降ったということになります。

### 133日分☂が たった1日で!!

## 「このままでは避難できない！」

### 水路整備を求める請願を 全員賛成で採択

町道4845号線わき水路氾濫防止のための整備について  
請願者：吉田 剛・植木常範・矢部 晶  
(奇居町大字鷹巣 ほか18名)  
紹介議員：大北久勝・笠原剛夫・吉田正美

「この請願の内容は、この水路は過去に何度も氾濫し、夏の夕立でも水があふれる状況。台風19号では、瞬時に道が川のようになり、水路との境界線がわからないことからの不安から、住民が避難できないということもあった。ぜひ対策を」というものです。議会では、総務経済常任委員会が現地を視察。「降雨時道路と水路を明確にすることが必要」との意見を聞き、委員長が本会議において「緊急時に生命・財産を守るように」との審査結果を報告。本会議において、**全員賛成で採択**しました。

大雨が降ると水路から水があふれ、家の前のこの道が川のように……。この先の田んぼの所は道路の境目がわからず、湖のようになってしまいます。台風19号では87歳の母を連れて避難ができず、不安で困りました。早急に整備してほしいですね。



台風19号の大雨で川ようになった道路

平井 雄さん(男衾)

災害の検証と課題の抽出のため、議員みずから聴いた「徹底取材220人の声」。

次ページからは、町民インタビュー！取材を通して見えてきた「選択した行動の理由は何だったのか？」



アンケート全文は議会HPで見られます▶

あのととき町は 避難所は

そして私たちがとるべき行動は

10月11日	11:00 災害警戒本部準備会議	自主避難所 1カ所を開設 総合体育館・アタゴ記念館	警戒レベル1 気象庁が発令	災害への心構えを高める
10月11日	17:00 早朝 大雨警報・洪水警報			
10月11日	8:30 災害警戒本部設置		警戒レベル2 町が発令	避難に備え 避難行動を確認！
10月11日	10:40 警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難開始	指定避難所 4カ所を開設 総合体育館・アタゴ記念館、折原小、鉢形財産区会館、男衾コメセン		
10月12日	14:00 災害対応を非常体制に移行 災害対策本部(全職員対応準備)		警戒レベル3 町が発令	高齢者は避難！
10月12日	15:30 警戒レベル4 避難勧告	指定避難所 5カ所を追加開設 西部コメセン、奇居小、桜沢小、用土小、男衾小		
10月12日	15:30 大雨特別警報		警戒レベル4 町が発令	全員避難！
10月12日	15:30 避難を呼びかけ(防災行政無線・メール配信サービス・HP・エリア内緊急速報メール・消防団による町内巡回等)			
10月13日	早朝 被害状況の確認		警戒レベル5 町が発令	すでに災害が発生 命を守る最善の行動を！
10月13日	14:00 災害対策本部会議。被害状況を確認後、非常体制解除			

**警戒レベルと「とるべき行動」**

※台風19号では「警戒レベル3・4」が出されました

- 警戒レベル1: 災害への心構えを高める
- 警戒レベル2: 避難に備え 避難行動を確認！
- 警戒レベル3: 高齢者は避難！
- 警戒レベル4: 全員避難！
- 警戒レベル5: すでに災害が発生 命を守る最善の行動を！